



2025年10月17日

各 位

会 社 名 ク リ ン グ ル フ ァ ー マ 株 式 会 社
住 所 大 阪 市 北 区 中 之 島 四 丁 目 3 番 5 1 号
Nakanoshima Qross 未来医療 R&D センター10階
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 安 達 喜 一
(コード番号: 4884 東証グロース)
問 い 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 部 長 村 上 浩 一
TEL. 06-7653-6728

肝細胞増殖因子（HGF）徐放性創傷治療剤の開発に関する 京都大学との共同研究開始のお知らせ

当社は、このたび、肝細胞増殖因子（HGF）を活用した徐放性創傷治療剤（※）の新たな開発に向け、国立大学法人京都大学（京都府京都市）と共同研究契約を締結しましたので、お知らせいたします。

近年、人口の高齢化や糖尿病患者の増加に伴い、糖尿病性潰瘍、静脈性下腿潰瘍、褥瘡（床ずれ）などの難治性潰瘍や医療関連褥瘡など、高齢者治療の合併症としての難治性創傷が社会問題となっており、創傷治療剤の市場は、国内だけでも 1,100～1,600 億円規模*と推測され、大きなビジネス機会が存在します。

他方で、既存の治療法として医療現場では培養真皮/皮膚、人工真皮などが使用されているものの、安定供給や感染症リスクなどの課題が存在しています。

難治性創傷の治療の研究に関しては、皮膚切除動物モデルに対して HGF が血管新生や上皮化促進作用によって創傷閉鎖を促進した一方で、過剰な瘢痕形成を抑制する効果が報告されていたところ（文献1）、京都大学大学院医学研究科形成外科学・森本尚樹教授らのグループは、コラーゲン・ゼラチンスポンジを用いて HGF を持続的に徐放することにより、高い治療効果を示したことを報告されております（文献2）。

そこで当社は、このたび、森本尚樹教授らと協働し、HGF と徐放性基材を組み合わせた難治性創傷治療剤を開発することで、新たな治療戦略の早期実用化を目指すことといたしました。

なお、本件による当社の業績へ与える影響について、研究開発費に占める割合は軽微です。

文献1. Yoshida S., et al. Growth Factor. 2004 Jun;22(2):111-119.

文献2. Ogino S., et al. J Surg Res. 2018 Jan;221:173-182.

* 厚生労働省の統計（令和4年）に基づき、医薬品（外用薬・軟膏等）、医療機器（ドレッシング材等）、再生医療等製品（人工皮膚等）の3カテゴリから創傷治療剤に該当する割合を仮定して当社推定。

以上

※ 徐放性創傷治療剤について

徐放性製剤とは、薬の有効成分がゆっくりと時間をかけて放出されるように設計された製剤です。創傷治療においては、次のような利点があります。

- ・薬効の持続：傷口に長時間薬が届くことで、治癒を促進します。
- ・副作用の軽減：急激な薬物濃度の上昇を避けることで、局所刺激や全身副作用を抑えます。
- ・患者様の負担軽減：頻繁な塗布や交換が不要になるため、医療者・患者双方の負担が減ります。

HGF (Hepatocyte Growth Factor, 肝細胞増殖因子) について

HGF は、成熟肝細胞の増殖を促進する因子として発見された生理活性タンパク質であり、その後の研究から細胞増殖のみならず、細胞運動促進、抗細胞死、形態形成誘導、血管新生など様々な組織・臓器の再生と保護を担う多才な生理活性を有することが明らかにされました。

HGF は神経保護作用や軸索伸展作用も有し、神経難病とされる脊髄損傷に対する薬理効果は、慶應義塾大学再生医療リサーチセンター 岡野栄之教授及び整形外科教室 中村雅也教授らのグループの研究により明らかにされています。また、ALS に対する薬理効果は、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 青木正志教授らのグループの研究により示されました。新たな神経難病治療薬として、HGF への期待が高まっています。

他方、京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 平野滋教授らのグループは、HGF の抗線維化作用に着目し、線維化疾患である声帯癬痕に対する薬理効果を明らかにしました。HGF には、声帯癬痕を端緒として、他の線維化疾患への適応拡大の可能性が期待されています。

クリングルファーマ株式会社について <https://www.kringle-pharma.com/>

当社は「難治性疾患治療薬の研究開発を行い、難病に苦しむ患者さんに対して画期的な治療手段を提供し、社会に貢献すること」を企業理念とし、希少疾病を対象に HGF タンパク質医薬品の自社開発を推進するバイオベンチャー企業です。

現在、HGF タンパク質医薬品のレイトステージの開発パイプラインでは、脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相臨床試験を終了し、さらに追加臨床試験に向けた準備を進めています。また、声帯癬痕を対象とする開発は第Ⅲ相臨床試験を実施中です。

当社は、HGF タンパク質医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。